



秋田大学教育文化学部附属小学校 校報

はとの子だより

No.7 令和8年6月29日(月)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

「足音が肥料になる」

毎朝、教室を回ると、子どもから「おはようございます」と元気な挨拶が返ってきます。子どもの生き生きとした表情に触れるこの時間は、何よりの宝物です。

実は、副校長である私が、以前勤務していた中学校の校長先生から教わった、日々大切にしている言葉があります。それは「足音が肥料になる」です。



植物が育つとき、ただ水をやるだけではなく、何度も何度もその場所に足を運び、様子を気に掛け、手を掛けることで見事な花や実を付けます。教育も全く同じです。大人が子どもの元へ足を運ぶ労を惜しまず、足繁く通うこと、その「足音」こそが、子どもを健やかに育てる最高の肥料になる、という意味が込められています。

毎朝の挨拶をはじめ、授業中や休み時間など、子どものすぐそばに行き、目を合わせ、声を掛ける。この小さな積み重ねが、子どもとの心の

つながり、そして深い「絆」をつくっていくのだと確信しています。



これからも、教職員一同、子どものすぐそばへ「足音」を響かせて、一人一人の成長を支えていきます。保護者の皆様と手を取り合い、温かい「足音」であふれる附属小学校をつくっていきたいと思います。

校内掲示にあふれる、子どもの成長の足跡

先日の学年・学級 PTA では、お忙しいところご参会くださりありがとうございました。

来校された際に、各学年入口の壁に目を留められたことと思います。そこには、今にも歓声が聞こえてきそうな臨場感あふれる写真や、行事で見せた子どもの生き生きとした姿など、「学びの足跡」が掲示されています。玄関前の食育コーナー、保健室前、メディアセンター前などにも、子どもがワクワクする情報が盛りだくさんです。

「環境が人を育てる」という言葉があります。子どもは、自分が頑張った姿や、友達と共に創り上げた軌跡が大切に掲示されているのを見て、自己肯定感を育み、「次も頑張ろう」という意欲を湧かせます。また、友達の姿から刺激を受けることもあります。この空間そのものが、子どもを育てる大切な教育環境なのです。

これらの掲示物は、教職員や保護者ボランティアの皆様が、時間を掛けて丁寧に作成しているものです。「子どもの頑張りを可視化したい」「成長の瞬間を共有したい」——そんな想いと子どもへの愛情が、壁一面に詰まっています。

学校へお越しの際は、ぜひ足を止め、子どもの表情や成長の足跡をご覧ください。そしてご家庭でも、楽しく学校生活を送っている様子を取り上げて話題にしていただければ幸いです。

